研　修　報　告　書

研修名　：保育園における育児支援
　　　　　～新制度発足を前に、保育園・保育士に新たに期待される役割～
研修講師：大日向　雅美　　恵泉女学園大学大学院教授
　　　　　　　　　　　　　子育てひろば「あい・ぽーと」施設長
研修日時：平成２６年９月２０日（土）１６：００～１８：００
研修会場：AP 渋谷道玄坂

研修内容

今まで：子どもの最前の利益が最優先
これから：育児支援（子どもの成長発達の応援だけでなく、その周りの人を支援する）

１．子ども子育て支援新制度施行までのながれ

・ 社会保障制度が、消費税 UP を財源として変わる。
・ 従来の社会保障は　医療・年金・介護の３経費だった。
・ 社会保障の柱が　医療・年金・介護・少子化　の４経費になった。
・ 現在の社会保障制度は１９７０年型と呼ばれている。
　男が外で働き、専業主婦が家庭で介護や育児を担っていた。
　　　↓
　１９９０年～
　少子化・高齢化
　女性の社会参加
　｝７０年型の保障制度が成り立たなくなった。

・ 循環型の社会保障から全世代型の社会保障へ　・・・若い人が喜んで社会保障を担うように・・・少子化対策を最優先課題へ
★ 社会保障制度の根幹に子どもという考え方が広まりつつある。
　（参）内閣府「子ども・子育て　支援新制度なるほど BOOK」

・ 新制度制定の流れ
　きっかけは１９９０年の１．５７ショック
　　　↓
　エンゼルプラン
　新エンゼルプラン
　｝在宅母子支援・男性の子育て支援
・２００７年：　ターニングポイント！

「子どもと家族を応援する日本」が重点戦略に
＊働き方（ワークバランス）の支援
＊保育の充実
～結婚で失うものが多すぎる～

・２００９年　民主党政権
・２０１０年　「子ども子育てビジョン」

Point！　自・公政権でやってきたことを継承した
社会全体で子育てを支える：個人の希望の実現

保育に欠けるか否かではなく、どれくらい保育を必要とするのかに視点を当てる。
短時間でも安心して預けることのできる場が必要。
保育をすべての子どもたちに

・　２０１０年６月　子ども子育て新システムの打ち出し
・　２０１２年８月　子ども子育て３法の成立

「子ども子育て支援新制度」とは

・　幼児期の学校教育・保育・地域の子育て支援・児童手当：包括的に提供するシステム
・　今までは、親の就労状況によって　幼・保を行ったり来たりすることもあったが、総合子ども園（民主党）→認定こども園（自・公）と施設を一体化することで解消する。

２．今なお厳しい子どもの育ちと子育ての現状

・　今の子育ての大変さは昔とは違う　少子・便利→子どもに対する期待が大
先が見えない
男性の子育て：ビジネスモードの育児になりがち
子ども同士のひっかきが裁判になる時代
イクメン増えても浸透しない
子どもの貧困
一人親家庭の貧困

・　苦しむ子どもや子育て世代を支援することが社会保障の役割であり**「社会の成熟度」を図る指標**になる。
・　不安定就労の人も保育園に入所できるように。
・　小規模施設の質も担保する。

必要な人に必要な情報をどのように届けるのか：あそこに行けば相談に乗ってもらえるという拠点が必要。

・　保育園・保育者にできること

＊ 本当の悩みは言語化されないことも多い
＊ 困っている親
↓
傾聴が大切
＊ 気付いたら
園内でのカンファレンス
地域の社会資源の活用・連携：この問題は〇〇さんと顔と名前のわかる関係の構築
＊保育言語の通用しない社会があることを理解し、マルチランゲージ（企業言語・行政言語等）を理解する。相手にわかる話し方。お互いに支え合う哲学を作る
＊ 保育の勉強をベースに社会科学・人文科学に視野を広げる

〈オムソーリ〉
高負担・高福祉社会を支える北欧の哲学：悲しみを分かち合うことで支えあう、支え合う方により喜びがある。

３．あい・ぽーと紹介（写真）

感想等

大日向先生のお話で、子ども子育て支援新システム制定までの社会と政治の流れがよくわかりました。１９９０年の１．５７ショックから、２０１５年の新制度のスタートまで何と２５年もの年数がかかったことは驚きです。女性の社会参加とM字就労の問題や、少子化・高齢化社会の問題等は、ずいぶん以前から明らかであったにも関わらず、制度がなかなか追いついていかず、そのためにますます子育てのしにくさが深刻化したように感じました。新制度は来年４月にはスタートですが、現段階でもまだ決まっていないことが多いと思いますし、認定こども園の認定返上の問題や、幼・保の統合が大きな柱であるにも関わらず、公立保育所のかなりの数が今後も保育所として残って行く等、いったいどこにゴールがあるのかと考えさせられることが多いのですが、この制度が保育の世界を大きく変える仕組みであることは間違いないと思います。今後もアンテナをきちんとはり、継続的に学習して行かなければいけないと感じました。
先生のお話を聞きながら、改めて人の暮らす社会は生き物で、日々姿を変え、従ってそれを支える仕組みが柔軟に対応する大切さを感じました。また支援の仕組みがあっても、それを使いこなすための情報が必要な人に届かない現実に触れ、改めて地域の子育て拠点としての保育所が機能していくことが大切だと思いました。あい・ぽーとの活動は拠点としての役割を見事に果たしていると感じました。人・物・設備の素晴らしさに加え、理由を問わない一時保育を夜の９時まで提供する等、机上の空論ではない活動に感銘を受けました。このような活動を広く進めるための、また保育の質を担保するための、財源が果たして十分なのか、その点は多いに気になるところです。保育の場の数の問題と、保育の質の問題が、同じ重さで語られることを望んでいます。